

⑥1 本銅口の沢砂防激甚災害対策特別緊急事業

受賞機関 岩手県 沿岸広域振興局 土木部 岩泉土木センター

キーワード 複雑な地質条件、相次ぐ斜面崩落、応急押え盛土、土木研究所による技術指導、新技術等の採用による工期短縮

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成28年台風第10号による土石流発生現場において、相次ぐ斜面崩落に対し国立研究開発法人土木研究所の技術指導のもとで対策工法を決定するとともに、ロッククライミングマシンや無足場工法等の新技術を採用し、安全性を確保しながら、計画工程より7か月短縮し、事業を完成させた点が評価された。

1. はじめに

本銅口の沢は、岩手県沿岸北部の岩泉町に位置し、二級河川小本川に流入する溪流で、土砂災害警戒区域（土石流）に指定されている。

平成28年8月の台風第10号に伴う記録的な豪雨により、岩手県内では155件の土砂災害が発生し、そのうち約8割が岩泉町内に集中した。

本銅口の沢においても、大規模な土石流が発生し、下流の人家や町道に甚大な被害が生じた。

2. 事業の概要

本災害をきっかけに、本銅口の沢では再度災害の防止を目的として、砂防堰堤及び溪流保全工の整備を開始した。しかし、当該箇所は複雑な地質条件を有し、施工中に複数回の斜面崩落が発生した。

このため、国立研究開発法人土木研究所の技術指導を受け、応急対策として押え盛土を施工するとともに、恒久対策の範囲や工法を決定した。

また、高所斜面の施工において、従来の人力を併用した片切掘削に代えて「ロッククライミングマシン」を導入し、独自のワイヤリングにより機械の移動及び削孔を行う「無足場工法」も導入した。



施工状況（応急押え盛土）

3. 事業の成果

押え盛土の撤去後、斜面下で砂防堰堤を施工するに際し、アンカー工や横ボーリング工を先行して実施し、所要の安全率を確保した結果、新たな斜面崩落を防止し、無事故で施工を完了した。

また、相次ぐ斜面崩落によって工程の大幅な遅れが懸念されたが、特殊重機及び新技術の活用に加え、工事関係者間の綿密な工程調整と継続的なフォローアップにより、計画工程を7か月短縮し、令和7年8月に工事が完成した。



完成状況

4. おわりに

本銅口の沢砂防堰堤の完成により、平成28年台風第10号に伴う土砂災害を契機として岩泉町内で実施してきた砂防事業は、全て完了した。

本事業の実施に当たり、地域住民の皆さまのご理解とご協力並びに関係各位のご尽力に対し、厚く御礼申し上げます。

今後も、ハード対策とソフト対策を適切に組み合わせ、効率的かつ効果的な土砂災害対策を進めるとともに適正な維持管理に努め、地域の安全・安心の確保に取り組んでいく。

賛助会員 畑中組(株)